

普通期 稲作情報 第1号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

田植は比較的順調に進み、早植え地域では最高分けつ期～幼穂形成期になっており、6月20日頃植えでは分けつを増やし始める時期になっています。
福岡管区気象台の1か月予報は次のとおりです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低 10 並 40 高 50% 高い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区気象台 平成28年6月30日発表抜粋)

1. 水 管 理

稲の活着後は間断かん水とし、分けつが確保できたら中干しを行ってください。

中干しの効果

- ① 土壌のガス抜きと酸素の供給により根の活性が増し、根腐れを防止します。
- ② 窒素吸収を抑制し、無効分けつを抑えます。
- ③ 根の生育が旺盛になり、倒伏が軽減されます。
- ④ 土壌が固まるため、収穫直前まで入水でき、籾の充実向上につながります。

中干し前に溝切りを行うと、水管理がスムーズに行えます。	
中干し開始の目安	1株当たり18～20本程度(田植え後25～30日程度)
中干しの期間	7～10日程度行います。
中干しの程度	田面に小さな亀裂が入る程度。 生育不足の場合や水持ちの悪い田では、軽めに干しましょう。 生育過剰の場合や排水不良の田では、強めに干しましょう。
中干し終了後	急に溜め水をすると根を傷めます。間断かん水か飽水(ひたひた水)管理をしてください。

2. 病虫害防除

★海外飛来性害虫

6月20日前後にセジロウンカ(夏ウンカ)とコブノメイガの飛来を確認しています。発生量は平年よりやや多く、トビイロウンカ(秋ウンカ)も飛来していると思われます。向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっているため、今後の発生に注意が必要です。

★いもち病の防除:

葉いもちが中山間地～山麓地の早植え地域で発生しています。補正防除を行ったほ場では、現在発生は停滞しています。しかし、いもち病の発生しやすいほ場(昨年多発生したほ場、冷や水が入るほ場、日陰の多いほ場、窒素が効いて軟弱な生育のほ場等)は、引き続き発生状況に注意し、発生を認めた場合は右表を参考に防除を行ってください。

<補正防除剤>

薬剤名	散布量 (10aあたり)	散布時期	使用上の注意
コラトップ粒剤5	3~4kg	・葉いもち 初発 10 日前~初発時 ・穂いもち 出穂 30 日前~5 日前まで	・夢つくし ・つくしろまん ・元気つくし は、いもち病に弱いので、 いもち病が発生したら、必ず施用 するようにしましょう。
アチーブ MC	2000 倍	発生初期 (収穫14日前まで)	
ビーム粉剤 DL	3~4kg	発生初期 (収穫 7 日前まで)	

3. 除 草 対 策

雑草が残っているほ場では、下記の薬剤を散布してください。

対 象 雑 草	薬 剤 名	10a 当 たり の 使 用 薬 量	10a 当 たり の 希 積 数 量	使 用 時 期
広葉 ホタルイ、カヤツリグサ等	バサグラン (Na)液剤	700ml	100ℓ (落水処理)	移植後15日~45日 (収穫50日前まで)
ノビエ、アゼガヤ キシュウスズメヒエ	クリンチャー E W	100ml (展着剤加用)	100ℓ 落水処理	移植後20日~ ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)
ノビエ、アゼガヤ キシュウスズメヒエ	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5kg	湛水処理	移植後25日~ ノビエ5葉期 (収穫30日前まで)
ノビエ	クリンチャー ジャンボ	30パック		移植後25日~ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで)
イネ科、広葉、 ホタルイ、カヤツリグサ等	クリンチャーバス M E 液 剤	1000ml	100ℓ 落水処理	移植後15日~ ノビエ5葉期まで(収 穫50日前まで)
	ワイドアタックSC	100ml	100ℓ 落水処理	移植後20日(稲5葉 期以降)~ ノビエ5葉期まで (収穫前30日前まで)
	ハイカット 1キロ粒剤	1kg	湛水処理	移植後15日~ ノビエ3.5葉期 (収穫前60日前まで)

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間(1週間程度)を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース)を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳